令和３年度　中央区立 中央小学校　自己評価報告書

学校名：　中央区立中央小学校　　　　　　　所在地：中央区湊１－４－１
校長名：　山本　有子
児童数　　２７０名　　学級数　１１学級　　教員数　１８名　　職員数　３名

本校では、「1　人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」、「2　児童の学力向上」、「3　児童の体力向上」の３点を重点目標に教育活動を行っています。これらについて、教員の自己評価を行うとともに、令和３年１２月から１月にかけて保護者、児童（４～６年生）による学校評価アンケートを実施しました。保護者学校評価アンケートの回収率は、９０．８％でした。

1　重点目標の達成状況及び取組状況

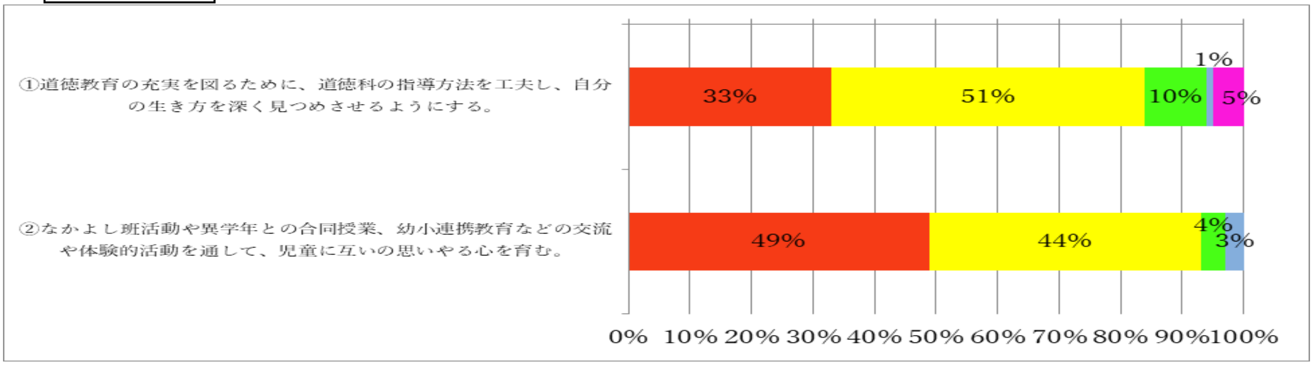
重点目標３項目の「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計を平均すると、教員は９７%、保護者は９２．６%となりました。以下、重点目標ごとの結果です。

〈グラフ中の色と内容〉

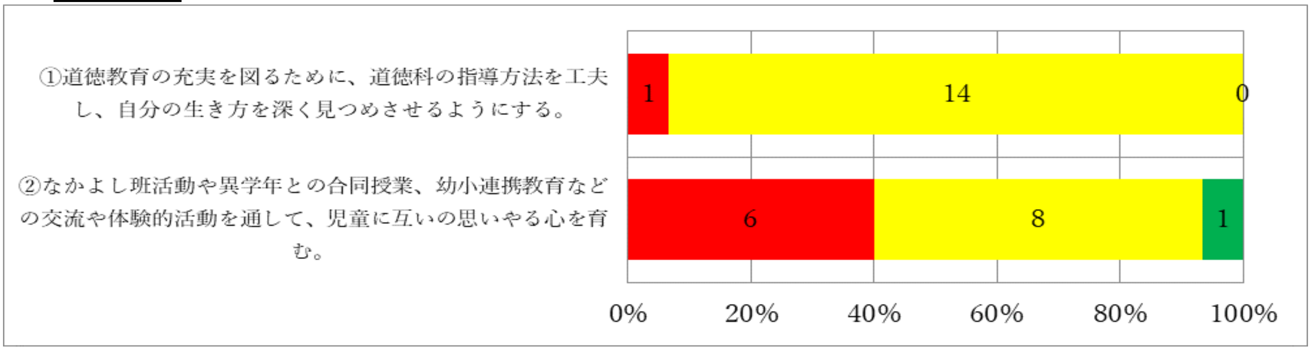
- 保よくあてはまる／教十分達成している
- 保あてはまる／教達成している
- 保あまりあてはまらない／教改善を要する
- 保あてはまらない／教緊急に改善を要する
- 保よくわからない

（1）重点目標１「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」

保護者



教員　　（単位：人）



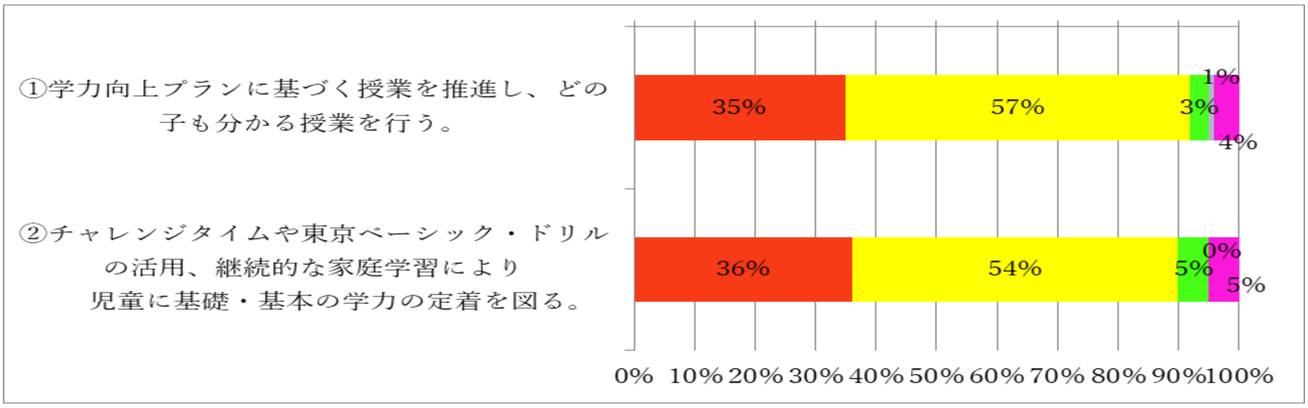
「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」の重点目標では、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計で、１項目について保護者から８８．５％と高い評価をいただいています。なかよし班活動などの縦割りによる活動や幼稚園との交流活動については、今年度も新型コロナウイルス感染症対応で一部実施しないものがありましたが、令和２年度より実施の幅が広がりました。どちらの項目も、教員の回答では、「十分達成している」が低いことから、子どもたちの思いやりの心の育成に向けて、活動の工夫をさらに進めていく必要があると考えます。

一方、平成３０年度から始まった「特別の教科　道徳」を含めた道徳教育については、保護者の「よくあてはまる」との回答が３３％となっています。昨年度より微減していますが、教員の回答も同様に高くないことから、学校全体での道徳教育について改めて重点を定め、道徳科の授業の充実も図ってまいります。また、「よく分からない」との回答が５％あることについては、道徳科の授業の理解を得られるよう、保護者会や学校ホームページ等でより丁寧に保護者へ説明していきたいと考えています。

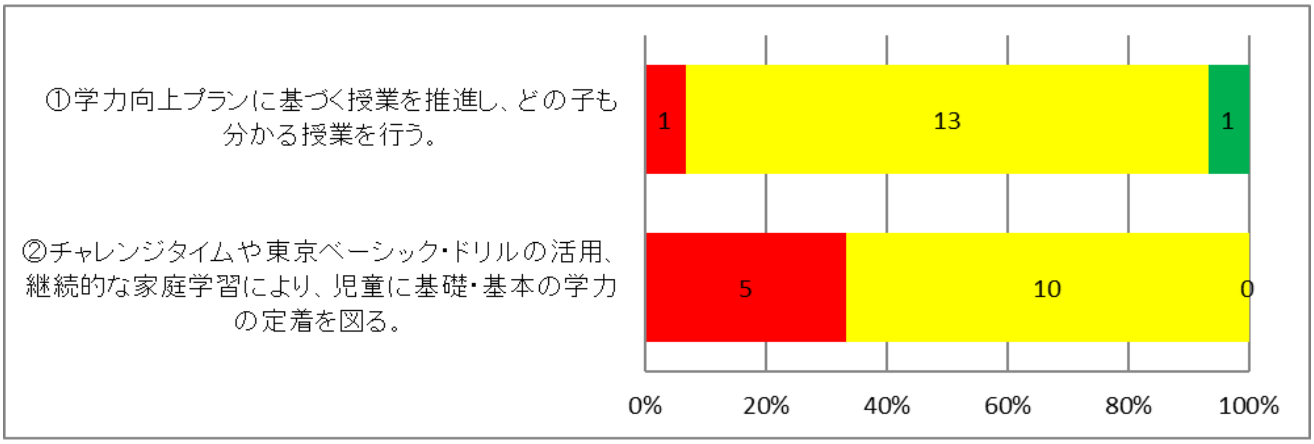
児童アンケートでの「友達と仲よく生活していますか」については、９６％が「よくできている」「できている」と答えました。ただし、「よくできている」は、昨年度より２ポイント減っていることと、２％が「できていない」と回答しています。また、「あいさつは元気よくしていますか」については、「よくしている」「している」が８９％に微増し、昨年度より３ポイント増えています。友達との関係づくりについて、あいさつ運動を含め、今後も工夫と充実を図ってまいります。

（２）重点目標２「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」

保護者



教員　（単位：人）

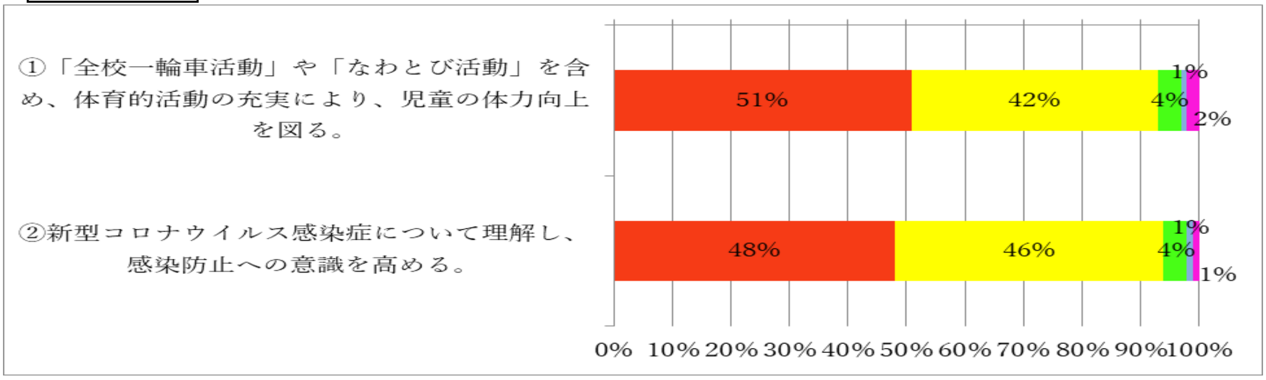


学力向上プランに基づく授業を推進し、分かりやすい授業に努めてきているものの、保護者の評価では、「あまりあてはまらない」と「よくわからない」で７％となっています。児童へのアンケートで「授業の内容はよく分かりますか」については、９６％が「よくわかる」「わかる」との回答で、「あまりわからない」が４％です。校内研修を積み重ね、さらに授業改善に取り組むことと、保護者にもその内容について説明する機会をこれまで以上に増やしてまいります。

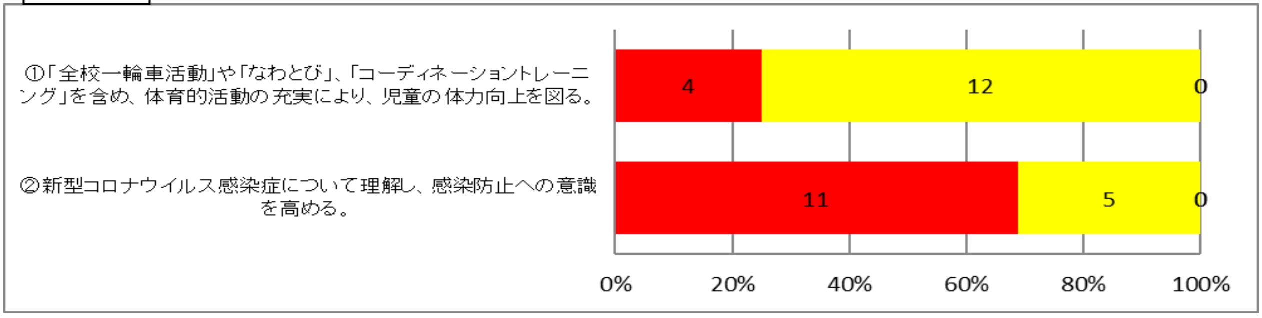
今年度の各種学力状況調査において、本校の４～６年の子どもたちの平均は、全国の平均よりおおむね上まわる傾向がみられましたが、区の平均を下まわる教科が見られました。今後も算数少人数授業などの指導体制や、チャレンジタイム（朝学習）、夏休み学習広場など基礎・基本の定着を図る取組を継続させ、家庭学習についても保護者と連携をとりながら、「基礎・基本の学力の定着」を図っていきます。

（３）重点目標３「児童の体力と健康への意識向上」

保護者



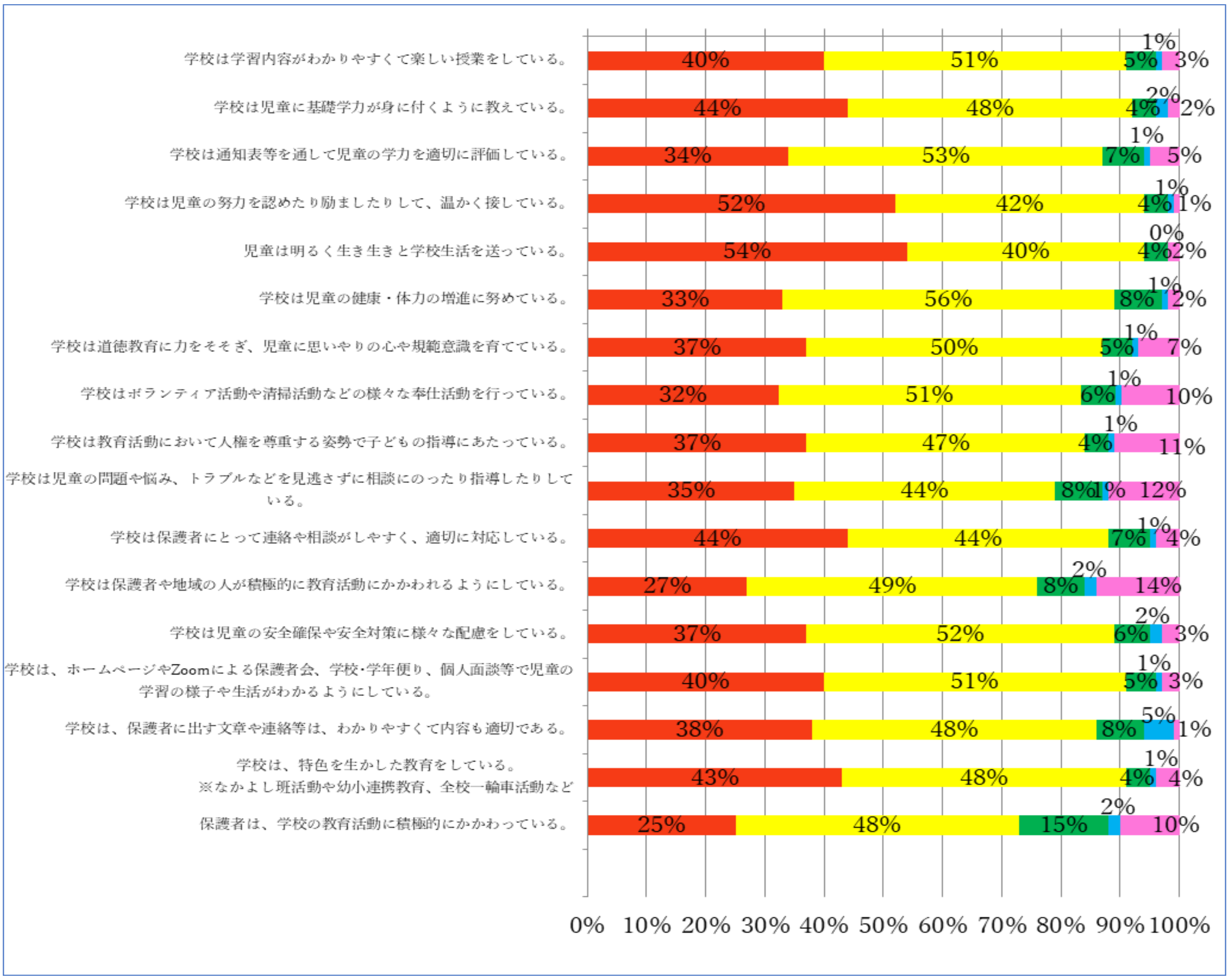
教員　（単位：人）



「児童の体力と健康への意識向上」の重点目標では、保護者から９０％以上の肯定的な回答をいただきました。本校の特色である全校一輪車活動を含めた様々な体育的活動に対してご理解をいただけていると考えます。また、新型コロナウイルス感染症の流行下でも個人で取り組める「なわとび」への取り組みを工夫し、指導しています。児童のアンケート結果では、「自分の体力作りに取り組んでいますか」の項目に、８１％の児童が「よく取り組んでいる」「まあまあ取り組んでいる」と回答していて、昨年度と同じ比率です。体力づくりへの取組の成果の向上までは見えておらず、さらなる工夫をしてまいります。また今後は、「あまりできていない」「できていない」と回答した児童への指導の工夫を考えていく必要があります。一人一人の子どもが自分の健康について考え、すすんで体力づくりに励むことができるよう体育的な活動をさらに工夫していきます。また、教員の回答では「十分達成している」があまり高くありません。日常的な体力づくりへの取組について工夫し、充実させていくことを考えていきます。

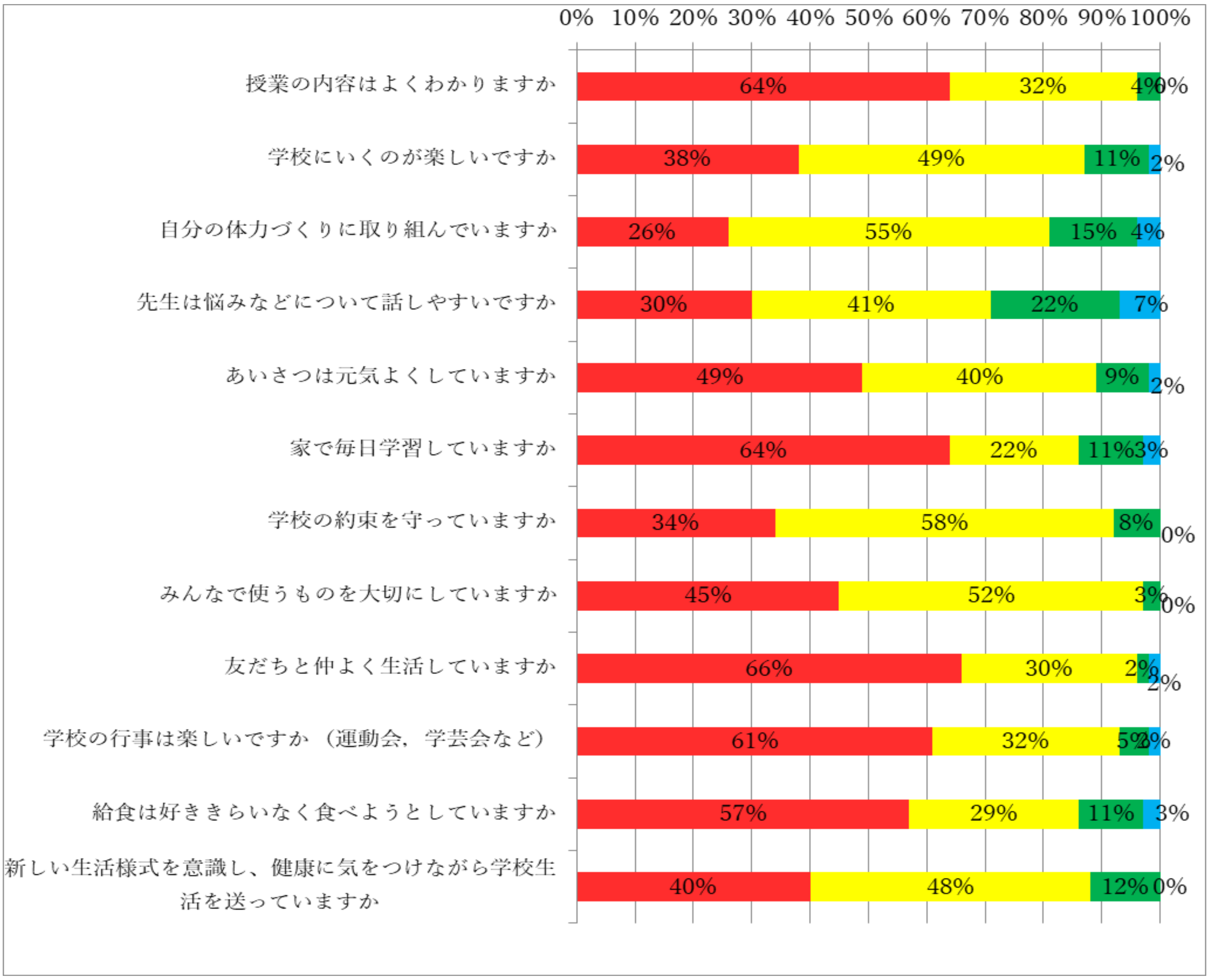
２　重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

＜保護者アンケートによる評価＞



全体の評価については、１７項目中、１４の項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が８０％以上、６項目が９０％を超えるという高い評価をいただきました。しかし、昨年度と比べると、７項目で微減となりました。今年度は感染症対策がとられつつ、学校公開の中止や制限等を行った実態から、「学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動に関われるようにしている」の項目は、特に低い評価となったと思われます。保護者には、今後も学校だよりや各学年だより、学校ホームページなどで本校の教育活動についてご理解いただき、感染症対策の中でも保護者会や個人面談、学校公開、学校行事などを通じて子どもたちの成長に向けて関わっていただけるよう呼び掛けていきたいと考えています。項目別に見ると、特に今年度の取組について、「学校ホームページや Zoom の活用」に関する項目で９１ポイントの肯定的な評価をいただきました。感染症対策から保護者会をオンラインで実施しました。中央区では、４月よりタブレット端末を児童に一人１台貸与し、授業で活用しています。また、これまで以上に、ＩＣＴ機器を効果的に使った授業を工夫してまいります。「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりする」では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」が２１％と他の項目より高くなっています。スクールカウンセラーとの連携の強化など、より一層児童一人一人に応じた相談体制や指導体制を整備し、保護者からの信頼を得ていく必要があると考えています。

＜児童アンケートの状況より＞



４～６年児童によるアンケートの全体の評価では、１２項目中、１１項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計が８０％以上となり、その内５項目で９０％以上という評価となりました。

特に、「授業の内容はよくわかる」「みんなと使うものを大切にしている」「友だちと仲良くしている」などでは９５％以上の評価となりました。学校生活での児童自身の達成感があると捉えることができます。中でも「みんなで使うものを大切にしている」は、「よくあてはまる」「あてはまる」が９７％と児童の規範意識の高さがみられます。貸与されたタブレット端末を扱う中でも、この意識が醸成されたようです。

「家で毎日学習している」では、「よくあてはまる」が昨年度より９ポイント減り、「よくあてはまる」「あてはまる」の合計も４ポイント減りました。感染症の影響が長引き在宅時間増加が続いたことも関係があると思われます。今後も学校と家庭と連携して学習を進めていきたいと考えています。

「学校にいくのが楽しい」については、肯定的な回答が８７％です。１００％の子どもが肯定的な評価ができることをこれからも目指していきます。

気になるところでは、「先生は悩みなどについて話しやすい」の項目の肯定的な評価が昨年度から６ポイント下がっていることと、「自分の体力づくりに取り組んでいる」「学校の約束をまもっている」の項目で、「よくあてはまる」が昨年度から９～１２ポイント評価が下がっています。次年度に向けて、これまで以上に子どもたち一人一人に寄り添い、子どもたちの道徳性や健康への意識と、自己肯定感を高めていけるよう取り組みます。

３　今後の改善方策

（１）教員の指導力を高め、授業改善を行い、児童の基礎・基本の力を定着及び学力・体力の向上により、児童の達成感を高める。

・校内研究の充実、算数少人数指導体制の充実、チャレンジ（朝学習）の充実、体育的な活動の充実、ＩＣＴ機器の活用、ＩＣＴ機器も活用した家庭学習との連携強化　など

・教員の働き方改革の着実な取組により、授業や子どもと向き合える時間を増やす。

（２）一人一人の子どもの状況を把握し、子どもたち同士の人間関係を良好にするために、人権尊重を基本とする教育活動を充実させる。

・思いやりを基本とする学級づくり、道徳科の授業の充実、子どもたちの活躍の場の設定、３つの「あ」（あいさつ、あつまり、あとしまつ）の励行　など

・生活指導や教育相談に対しては、未然防止も含め「迅速・誠実・丁寧」を大切にした対応に努める。

（３）保護者・地域との連携を深め、学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。

・学校公開、学校行事、特別授業などでの地域・保護者との関わりの充実

・学校だより、学年だより、学校ホームページ、タブレット端末活用などの発信の充実

・保護者会、個人面談、教育相談などでの情報交換の充実